

まちづくり懇談会での意見、要望

1 自治体運営 関連

1 市（行政）職員等に関すること

市職員には、市民の声を反映するため、市民の声を聴く耳を持ってほしい。
広報紙等で周知した後の町内会の苦勞を知ってほしい。

及び の回答内容

「まちづくり基本条例」の精神に基づき、しっかりと市民の声に耳を傾けるなど、誠実に対応したい。

2 生活・環境 関連

1 交通網・交通体系の充実及び整備に関すること

きらきらバスの本数の充実

回答内容

要望として受けとめ、別途検討する。

高齢社会到来による公共交通機関の充実

回答内容

人口の減少により交通の問題、医療の問題などさまざまな問題が発生するが、永遠のテーマである「住んでいてよかったと思えるまちづくり」を図っていく。

国道452号の早期開通

回答内容

開通までのおよそ12.9キロメートルの整備については、保安林の解除に係る許可の問題があるが、平成21年度からは、本格着工に向けての調査が予定されている。この問題は、旭川空港までの交通アクセスを考えると、総合計画における向こう10年間の重要な要素でもあり、今後も引き続き、国などへの働き掛けを強めていく。

2 ごみのポイ捨て・不法投棄・環境美化・都市緑化に関すること

環境美化里親制度に係る事務手続を簡素化してほしい。

回答内容

要望として受けとめ、別途検討する。

西芦別地区に設置しているような「不法投棄禁止」の看板をポイ捨てや不法投棄が多く行われている他の場所（地区）にも設置してほしい。

回答内容

回答不要とのこと。

（ただし、要望のあったごみのポイ捨てや不法投棄が多い「頼城旭西線」の沿線上にあっては、後日、担当部署において、「不法投棄禁止」の看板の現状を把握したところである。）

ごみのポイ捨てや不法投棄が多く行われている場所（地区）に監視（疑似）カメラを設置するほか、市でパトロールを実施するなど市において対応してほしい。

回答内容

防犯（監視）カメラの設置については、ひとつの検討材料とするが、ごみのポイ捨てや不法投棄については、モラルの問題と考える。ひとつの手法としては、ポイ捨て禁止条例を制定することが考えられるが、このような条例をつくることは、それだけ芦別のモラルが低いのかといった問題もある。

今後は、まずは、モラルに訴えかけるような方法をもって取り組んでいき、環境基本計画の趣旨を十分に周知のうえ、環境に対する意識の向上を図っていきたい。

また、パトロールについては、ボランティア活動としてリサイクル推進員に依頼する方法も考えているところである。

不法投棄については、市民が目撃した場合には通報してもらうなど、何らかのアクションを起こす必要があるのではないか。

回答内容

先述のリサイクル推進員にパトロールを依頼することも、ひとつの「市民の目」であり、この「市民の目」は重要な要素になるものとする。

「全市一斉親子クリーン作戦」について、名称を例えば「全市一斉クリーン作戦」に変更すれば、親子に限らず誰もが気軽に参加できるようになるのではないか。

回答内容

関係部署と協議のうえ、「全市一斉親子クリーン作戦」のあり方について検討する。

花いっぱい運動の充実による環境美化及び緑化の推進

回答内容

関係部署と協議のうえ、他の自治体に負けないような「花いっぱい運動」に取り組んでいきたい。

3 防犯灯及び街路灯の整備に関すること

防犯灯の電球は、現行では白熱灯となっているが、この白熱灯は、将来的には生産が中止されるため、防犯灯などの電球を交換するときには、蛍光灯かLED（次世代型・環境配慮型省エネ電灯）が必要になってくる。

この交換に係る費用は、白熱灯の10倍ないし15倍程度になると考えられるため、この交換費用を町内会で負担することは困難であることから、できれば市において負担してもらいたい（現行の電気料の補助金に加算してほしいとのこと。）

回答内容

担当部署である市民課に趣旨を伝える。また、補助金のあり方については、市財政健全化の観点及び防犯の観点から、防犯灯のあり方（そのまま維持していくのか、それとも見直しをしていくのか）を検討しなければならない問題である。

これらの観点を踏まえ、どこまで費用を負担できるのか、限りある予算の中で検討したい。

「暮らし、交通などにおける安全・安心」・「防犯」の観点からの街路灯の整備

回答内容

「安心・安全なまちづくり（環境）」は総合計画においても重要な課題であるため、今後の策定にあたって、当然、議論されてくる課題である。

3 産業・経済 関連

1 農業に関すること

新規就農者の支援制度は無駄であり、既存の農家に対し支援をするような制度が必要と考える。

回答内容

企業誘致も重要と考えるが、市民の意見をもらいながら市内で頑張っているさまざまな地場産業をいかに支援し、守り育てていくかがより重要である。

農産物の付加価値化とその支援

回答内容

缶詰などの保存食をつくることのできる食糧備蓄基地としての体制を目指すことにより、将来に渡って災害や非常時に強いまちとなる。

何とか、原材料を缶詰などの加工品に製造することが芦別においても可能になるような発想を出してもらいたい。

農産物加工施設の設置と販路の拡大

回答内容

今後、総合計画（実施計画）を策定していく中で、検討していくこととする。

芦別米のブランド化とその消費拡大のための販路の拡大

J Aたきかわとの合併による芦別米の埋没

及び の回答内容

例えば「常磐の米」というようなブランド米を考えるなど、芦別の米を守り、芦別米の販路を拡大するためのアイデアを出してほしい。

農業利用のためのエルムダム水源利用

回答内容

エルムダムは国営であることから、基本的には、畑作農地用として使用することが原則となっている。よって、なかなか自由に利用できない水資源であるが、水質は素晴らしいことから、何とかこの水を多目的に利用できないか検討したい。

2 林業・野生生物に関すること

市の業務を森林組合に委託するのではなく、直接、建設業協会に委託してはどうか。

回答内容

内容を精査し、別途検討する。

野生生物との共存共栄と有害（駆除すべき）動物との住み分けをどのように図るか。また、キツネのエキノコックスの問題もどうなっているのか。

回答内容

シカなどによる農作物被害は多大であり、これは農家にとっても死活問題である。この問題については、行政だけでは解決できない問題であり、「有害鳥獣対策連絡協議会」など関係機関と連携を図りながら、動植物との共存共栄を実現できるような対策にあたっていきたい。

（キツネのエキノコックスの問題については、関係部署に確認のうえ別途回答）

3 産業・雇用に関すること

若い人の働き場所の確保と若い人が地元で生活を送ることができるような環境整備

回答内容

まず、企業の誘致と起業化を図ることが考えられるが、現状では簡単にはいかない状況である。

また、学校誘致や合宿誘致などによる交流人口の拡大による地域振興策では、雇用の増加にはつながらないことも事実である。

このような中で、行政による起業は困難で、民間活力による新しい取組（起業）については、市は支援したいと考えている。

農産物加工場を新たに設置することによる産業の振興と雇用の場の確保

回答内容

今後、総合計画（実施計画）を策定していく中で、検討していくこととする。

露頭炭をはじめとする埋蔵されている石炭の有効活用（例えば、北海道電力への売電など。）とこれらの取組を推進することによる「雇用の増加」・「景気回復」・「人口減少の歯止め」が期待できる。

回答内容

露頭炭や石炭については、将来のエネルギー・バイオマス計画の中で考えなければならない問題であり、平成21年度においては、新エネルギービジョンを策定し、市内にある自然エネルギーの賦存量を調査しようと考えている。

その次は、可能であれば、地下エネルギーの調査を行い、有効に利用できるエネルギーがあるかどうかを検討したい。ただし、石炭については、露頭炭の事業者がかなりの情報を持っているので、この事業者と調整を図っていきたい。

また、仮に、有効に利用できるエネルギーがあった場合でも、その後の利用方法については、十分に検討したい。

企業誘致などの施策を展開し、働き場を確保してもらうなど、人口の減少に歯止めを掛けてほしい。

回答内容

現代の少子高齢社会の中においては、なかなか人口の減少に歯止めを掛けるのは難しいが、雇用の場をつくるには、既存の企業を守っていくことが非常に重要になってくる。

また、今後は、少子対策、高齢者対策、雇用対策、企業を守る対策などあらゆる対策を総合計画の中に盛り込んでいかなければならないものと考えている。

なお、雇用については、芦別高校を卒業した人が何とか地元で就職することができるような環境をつくっていきたい。

4 保健・医療・福祉 関連

1 医療・高齢者福祉・介護に関すること

市立病院の経営状態を勘案し、医療圏の中心地である砂川市立病院に通院できるようなシャトルバスを検討してはどうか。

また、砂川市立病院は新病院を建設しているが、この建設にあたって、120億円程度の費用が掛かるとされている。これだけの予算を使っている病院を利用すべきで、芦別が砂川のような病院を建設して、予算を掛けるのは疑問である。

回答内容

砂川市立病院ですべて対応できるのかといった問題もある。芦別の医師の質もすばらしいと考えているので、芦別の市立病院は存続させたい。

安心して出産し、子育てができる環境（病院・まち）づくり

回答内容

広域医療も視野に入れながら、何とか地域医療の中心である市立病院を存続させたい。

高齢社会の到来による「高齢者の知恵と経験を生かしたまちづくり」の推進（例えば、高齢者と年少者による交流活動の推進）

回答内容

どのようにして高齢者の知恵と経験を活用することができるのかを検討のうえ、実施計画の中で反映したい。

介護施設への入所待機者の解消と介護施設の整備・充実

回答内容

現在、入所待機者は200人程度いるが、芦別の現状を考えると、希望者に対する施設の収容能力は少ないのが現状である。

今後は、総合計画の中で、介護施設をどこまで充実できるのかを検討したい。

5 教育・文化 関連

1 学校の統廃合に関すること

少子社会の到来と現在の出生数を考えると、小規模校のあり方を検討しなければならないと考える。

統廃合を取り進めるにあたっては、廃校後の校舎の跡利用が大きな課題になると考える。

及び の回答内容

昨年1年間の出生人数は70人程度であり、この傾向は少子高齢の中では、今後大きく増える要素はないものとする。

このような中で、学校の統廃合問題も今後、検討しなければならない重要な問題であり、現段階の構想では「2小学校・2中学校」体制を考えている。

また、学校の統廃合の問題については、適正な教育環境を確保するため、市民の意見を踏まえながら、ここ2、3年の間には、時期を明確にしたうえで、市長が先頭になって協議していきたいと考える。

なお、統廃合した後の廃校となる学校の利活用については、地域の皆さんと十分に協議をし、意見をもらいながら、有効活用を図っていきたい。

【その他複数分野に関する事項】

1 エネルギー・バイオマスに関すること

廃食油を使ってバイオ燃料にするなどしてコストダウンを図るとともに、このような新たなエネルギーに関する取組を行ってはどうか。

温泉を掘るなど地下資源（エネルギー）を使って、ビニールハウスなど農業に利用してはどうか。

及び の回答内容

策定した環境基本計画のほか、新エネルギービジョンやバイオマスタウン構想を検討する中で、新たなエネルギーの利活用に取り組んでいきたい。

2 観光に関すること

観光のあり方について、お年寄りが孫を連れて来ることができるような誰もが気軽に行ってみたいと思えるような観光づくり

回答内容

今後、総合計画（実施計画）を策定していく中で、検討したい。

三段滝公園のトイレをきれいにするによる観光のまち「あしべつ」のPR

回答内容

北海道開発局など関係機関と協議をしながら、三段滝公園を何とか自然のきれいな観光名所として残せるよう、取り組んでいきたい。

また、現在、三段滝公園の改善に向けて、電気及び水が利用できるよう関係機関と調整中である。